

HP またはオプトアウト用掲示

研究課題名 (倫理委員会受付番号)	70 才以上の高齢者における上部消化管穿孔に対する保存治療の妥当性に関する検討
当院の研究責任者	外科 産本陽平
代表研究機関 代表研究者	
研究の目的	上部消化管穿孔(胃、十二指腸)に対する治療法として保存治療の有効性が報告されているが、発症後の長時間経過例、重篤な併存疾患を有する例、汎発性腹膜炎の合併例、70 歳以上の高齢者などでは保存治療の完遂が困難であり、手術加療を検討すべきとされている。(消化性潰瘍診療ガイドライン 2020) しかし高齢者は加齢に伴う活動性の低下、複数の併存疾患や予測予後を考慮し保存治療が選択される場合も多く、これまで手術と保存治療の成績を比較した報告は少ない。今回 70 才以上の高齢者における上部消化管穿孔に対する保存治療の有効性と安全性について検討をする。
調査データ該当期間	2016 年 4 月 1 日～2022 年 3 月 31 日
研究の方法 (使用する試料等)	上記の調査データ該当期間に当院で上部消化管穿孔(胃または十二指腸穿孔)の診断で入院加療された 70 才以上の患者を対象とし、診療録をもとに、以下の項目について抽出し検討します。 調査項目：年齢、性別、BMI、来院時のバイタルサイン、血液検査、併存疾患、CT 画像所見、手術の是非、抗生剤の使用期間、輸血の有無、絶食期間、入院期間、転帰(自宅退院の有無など) 統計解析を行い、その結果は学術集会での発表、医学雑誌に掲載します。
試料/情報の他の研究機関への提供及び提供方法	他の研究機関への提供はいたしません。
個人情報の取り扱い	利用する情報から氏名や住所、受診日等の患者さまを直接特定できる個人情報は削除します。また、患者さまを特定できる個人情報は利用しません。
本研究の資金源 (利益相反)	本研究に関連し開示すべき利益相反関係にある企業等はありません。
お問い合わせ先	電話：0242-27-5511 研究責任者：産本陽平
備考	本試験の対象者に該当する可能性のある方で、診療情報等を研究目的に利用又は提供されることを希望されない場合は、上記の問い合わせ先にお問い合わせください。なお、協力いただかない場合でも患者様に不利益は一切ございません。